

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



**2021.8.23-29**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

9:1 さて、エルバアルの子アビメレクは、シェケムにいる自分の母の身内の者たちのところに行き、彼らと母の一族の氏族全員に告げて言った。

9:2 「どうかシェケムのすべての者に、よく言って聞かせてください。エルバアルの息子七十人がみなで、あなたがたを治めるのと、ただひとりがあなたがたを治めるのと、あなたがたにとって、どちらがよいか。私があなたがたの骨肉であることを思い起こしてください。」

9:3 アビメレクの母の身内の者たちが、彼に代わって、これらのことをみな、シェケムのすべての者に言って聞かせたとき、彼らの心はアビメレクに傾いた。彼らは「かれは私たちの身内の者だ」と思ったからである。

9:4 彼らはバアル・ベリテの宮から銀七十シェケルを取り出して彼に与えた。アビメレクはそれで、ごろつきの、ずうずうしい者たちを雇った。彼らはアビメレクのあとについた。

9:5 それから、アビメレクはオフラにある彼の父の家に行って、自分の兄弟であるエルバアルの息子たち七十人をつつの石の上で殺した。しかし、エルバアルの末子ヨタムは隠れていたので生き残った。

9:6 それで、シェケムの者とベテ・ミロの者はみな集まり、出かけて行って、シェケムにある石の柱のそばの樫の木のところ、アビメレクを王とした。

9:7 このことがヨタムに告げられたとき、彼は行って、ゲリジムの頂上に立ち、声を張り上げ、彼らに叫んで言った。「シェケム

の者たち。私に聞け。そうすれば神はあなたがたに聞いてくださる。

9:8 木々が自分たちの王を立てて油をそそぐと出かけた。彼らはオリーブの木に言った。『私たちの王となってください。』

9:9 すると、オリーブの木は彼らに言った。『私は神と人とをあがめるために使われる私の油を捨て置いて、木々の上にそよぐために出かけなければならないだろうか。』

9:10 ついで、木々はいちじくの木に言った。『来て、私たちの王となってください。』

9:11 しかし、いちじくの木は彼らに言った。『私は、私の甘みと私の良い実を捨て置いて、木々の上にそよぐために出かけなければならないだろうか。』

9:12 それから、木々はぶどうの木に言った。『来て、私たちの王となってください。』

9:13 しかし、ぶどうの木は彼らに言った。『私は、神と、人とを喜ばせる私の新しいぶどう酒を捨て置いて、木々の上にそよぐために出かけなければならないだろうか。』

9:14 そこで、すべての木がいばらに言った。『来て、私たちの王となってください。』

9:15 すると、いばらは木々に言った。『もしあなたがたがまことをもって私に油をそそぎ、あなたがたの王とするなら、来て、私の陰に身を避けよ。そうでなければ、いばらから火が出て、レバノンの杉の木を焼き尽くそう。』

ギデオンの息子であるアビメレクは母方の身内をそそのかし、資金を手に入れてごろつきを雇い、父であるギデオンの息子すなわち自分の異母兄弟たちを殺しました。ただ1人難を逃れたヨタムは

アビメレクを王とすることの愚かさや悲劇とを宣言しました。

ここにいたるまでにはいくつもの問題点が重なっています。まずギデオンが神ご自身やそのみことばよりも、エポデという目に見えるものを勝利の象徴としてことです。それによって民は神とその御心を忘れるようになってしまいました。

またギデオンにはたくさんの妻がおり、その家庭生活が健全ではなかったのです。その環境で女奴隷から生まれたのがアビメレクでした。身内の者たちも神の御心よりも、「身内のものだ」という心情に流されてしまいました。

これらのことから私たちは警戒を与えられす必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9:16 今、あなたがたはまことと真心をもって行動して、アビメレクを王にしたのか。あなたがたはエルバアルとその家族とを、ねんごろに取り扱い、彼のてがらに報いたのか。

9:17 私の父は、あなたがたのために戦い、自分のいのちをかけて、あなたがたをミデヤン人の手から助け出したのだ。

9:18 あなたがたは、きょう、私の父の家にそむいて立ち上がり、その息子たち七十人を、一つの石の上で殺し、女奴隷の子アビメレクをあなたがたの身内の者だからというので、シェケムの者たちの王として立てた。

9:19 もしあなたがたが、きょう、エルバアルと、その家族とにまことと真心をもって行動したなら、あなたがたはアビメレクを喜び、彼もまた、あなたがたを喜ぶがよい。

9:20 そうでなかったら、アビメレクから火が出て、シェケムとベテ・ミロの者たちから火が出て、アビメレクを食い尽くそう。」

9:21 それから、ヨタムは逃げ去り、ペエルに行き、兄弟アビメレクを避けてそこに住んだ。

9:22 アビメレクは三年間、イスラエルを支配した。

9:23 神は、アビメレクとシェケムの者たちの間にわざわいの霊を送ったので、シェケムの者たちはアビメレクを裏切った。

9:24 そのためエルバアルの七十人の息子たちへの暴虐が再現し、彼らの血が、彼らを殺した兄弟アビメレクと、アビメレクに加勢して彼の兄弟たちを殺したシェケムの者たちの上に臨んだ。

9:25 シェケムの者たちは、山々の頂上に彼を待ち伏せる者たちを置いたので、彼らは道で

そばを過ぎるすべての者を略奪した。やがて、このことがアビメレクに告げられた。

1人だけアビメレクに殺されずに残った末の息子ヨタムは、「アビメレクから火が出て、シェケムとベテ・ミロの者たちから火が出て、アビメレクを食い尽くそう。」と宣言し、事実そのようになりました。

アビメレクの最大の問題は自分の野心でした。それは神のためではなく、あくまでも自己中心の目的でした。彼のような極端な行動はとらないとはしても、誰でも神抜きをのめを貫こうとするなら、人を傷つけることになるのです。

ヨタムは逃げ去る以外できないで弱い存在ではりましたが、アビメレクについての比喻または預言をすることによって、後の結果が神様から出たものであることを人々に想起させました。弱い立場、不適な立場の者にも必ず神様の役割があることは感謝です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9:26 エベデの子ガアルとその身内の者たちが来て、シェケムを通りかかったとき、シェケムの者たちは彼を信用した。

9:27 そこで彼らは畑に出て行って、ぶどうを収穫して、踏んだ。そして祭りをし、自分たちの神の宮に入って行って、飲み食いし、アビメレクをののしった。

9:28 そのとき、エベデの子ガアルは言った。「アビメレクとは何者か。シェケムとは何者か。われわれが彼に仕えなければならないとは。アビメレクはエルバアルの子、ゼブルはアビメレクの役人ではないか。シェケムの父ハモルの人々に仕えなさい。なぜわれわれはアビメレクに仕えなければならないのか。」

9:29 だれか、この民を私の手に与えてくれないものか。そうすれば私はアビメレクを追い出すのだが。」そして彼はアビメレクに言った。「おまえの軍勢をふやして、出て来い。」

9:30 この町のつかさゼブルは、エベデの子ガアルの言ったことを聞いて、怒りを燃やし、9:31 トルマにいるアビメレクのところに使者を送って言わせた。「今、エベデの子ガアルとその身内の者たちがシェケムに来ています。今、彼らは町を、あなたにそむかせようとしています。」

9:32 今、あなたとあなたとともにいる民は、夜のうちに立って、野で待ち伏せなさい。

9:33 朝早く、太陽が昇るころ、町に突入しなさい。すると、ガアルと、彼とともにいる民は、あなたに向かって出て来るでしょう。あなたは好機をつかんで、彼らを攻撃することができます。」

9:34 そこでアビメレクと、彼とともにいた民はみな、夜のうちに立って、四隊に分かれてシェケムに向かって待ち伏せた。

9:35 エベデの子ガアルが出て来て、町の門の入口に立ったとき、アビメレクと、彼とともにいた民は、待ち伏せしていた所から立ち上がった。

9:36 ガアルはその民を見て、ゼブルに言った。「あれ、山々の頂から民が降りて来る。」すると、ゼブルは彼に言った。「あなたは、山々の影が人のように見えるのです。」

9:37 ガアルはまた言った。「いや。人々がこの地の一番高い所から降りて来る。また一隊がメオヌニムの樫の木のほうから来る。」

9:38 すると、ゼブルは彼に言った。「『アビメレクとは何者か。われわれが彼に仕えなければならないとは』と言ったあなたの口は、いったいどこにあるのですか。あなたが見くびったのは、この民ではありませんか。さあ、今、出て行って、彼と戦いなさい。」

9:39 そこで、ガアルはシェケムの者たちの先頭に立って出て行き、アビメレクと戦った。

9:40 アビメレクが彼を追ったので、ガアルは彼の前から逃げた。そして多くの者が刺し殺されて倒れ、門の入口にまで及んだ。

9:41 アビメレクはアルマにとどまったが、ゼブルは、ガアルとその身内の者たちを追い払って、彼らをシェケムに住ませなかった。

9:42 翌日、民は、野に出かけて行って、アビメレクに告げた。

9:43 そこで、アビメレクは自分の民を引き連れて、それを三隊に分け、野で待ち伏せた。すると、民が町から出て来るのが見えたので、彼らを襲って打った。

9:44 アビメレクと、彼とともにいた一隊は突入して、町の門の入口に立った。一方、他の二隊は野にいたすべての者を襲って、打ち殺した。

9:45 アビメレクはその日、一日中、町で戦い、この町を攻め取り、そのうちにいた民を殺し、町を破壊して、そこに塩をまいた。

アビメレクはその母の出身地シェケムの人々をそそのかして権力を得ました。ガアルという人物がシェケムとアビメレクを敵対させ、アビメレクはシェケムを攻め、その結果シェケムは焼かれました。

この長い記述の中には神という文字が1つの出てきません。彼らは誰と敵対しようとも神様を忘れ、神の御心と離れたところで戦っていたのです。それは空しいつづしあいにか過ぎません。

出来事に振り回されて、神様を忘れることのないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9:46 シェケムのやぐらの者たちはみな、これを聞いて、エル・ベリテの宮の地下室に入って行った。

9:47 シェケムのやぐらの者たちがみな集まったことがアビメレクに告げられたとき、

9:48 アビメレクは、自分とともにいた民とツアルモン山に登って行った。アビメレクは手に斧を取って、木の枝を切り、これを持ち上げて、自分の肩に載せ、共にいる民に言った。「私がするのを見たおりに、あなたがたも急いでそのとおりにしなさい。」

9:49 それで民もまた、みなめいめい枝を切って、アビメレクについて行き、それを地下室の上に置き、火をつけて、地下室を焼いた。それでシェケムのやぐらの人たち、男女約一千人もみな死んだ。

9:50 それから、アビメレクはテベツに行き、テベツに對して陣を敷き、これを攻め取った。

9:51 この町の中に、一つ、堅固なやぐらがあった。すべての男、女、この町の者たちはみなそこへ逃げて、立てこもり、やぐらの屋根に上った。

9:52 そこでアビメレクはやぐらのところまで行って、これと戦い、やぐらの戸に近づいて、それを火で焼こうとした。

9:53 そのとき、ひとりの女がアビメレクの頭にひき臼の上石を投げつけて、彼の頭蓋骨を砕いた。

9:54 アビメレクは急いで道具持ちの若者を呼んで言った。「おまえの剣を抜いて、私を殺してくれ。女が殺したのだと私のことを人が言わないように。」それで、若者が彼を刺し通したので、彼は死んだ。

9:55 イスラエル人はアビメレクが死んだのを見たとき、ひとりひとり自分のところへ帰った。

9:56 こうして神は、アビメレクが彼の兄弟七十人を殺して、その父に行った悪を、彼に報いられた。

9:57 神はシェケムの人々のすべての悪を彼らの頭上に報いられた。こうしてエルバアルの子ヨタムののろいが彼らに実現した。

人々は地下室、またやぐらに逃げ込みましたが、アビメレクは容赦なく彼らを焼き殺しました。そこで無名の女性が（おそらく復讐心にもえてでしょう）アビメレクの頭に思い石臼を落とし、彼の頭蓋骨を砕きました。聖書はこれを「ヨタムののろいが彼らに実現した」と記し、暴虐の者は必ず自らもたらした恨みによって滅びることを示唆します。

士師記では「神を忘れた者の愚かしさ」を表します。ここではアビメレクもそうですが、当初は彼にそのような権力を与えたシェケムの人々も「神を忘れた」という点では同じです。何の得るものも、また次世代に何の価値あるものも残すことができずに滅びてしまいました。

神様のために、その愛と救いのために戦うならばそのようなことはありません。必ず価値あるものを得、また価値あるものを残すので。もう1度、ギデオンの三百人の勇者の信仰を思い出し、よき証しとなって生きましょう。

またどちらが勝っても神の栄光にならないような争いをしてはいないか、自分の現状を見つめてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10:1 さて、アビメレクの後、イスラエルを救うために、イッサカル人、ドドの子プワの息子トラが立ち上がった。彼はエフライムの山地にあるシャミルに住んだ。

10:2 彼は、二十三年間、イスラエルをさばいて後、死んでシャミルに葬られた。

10:3 彼の後にギルアデ人ヤイルが立ち上がり、二十二年間、イスラエルさばいた。

10:4 彼には三十人の息子がいて、三十頭のろばに乗り、三十の町を持っていたが、それは今日まで、ハボテ・ヤイルと呼ばれ、ギルアデの地にある。

10:5 ヤイルは死んでカモンに葬られた。

10:6 またイスラエル人は、主の目の前に重ねて悪を行い、バアルや、アシュタロテ、アラムの神々、シドンの神々、モアブの神々、アモン人の神々、ペリシテ人の神々に仕えた。こうして彼らは主を捨て、主に仕えなかった。

10:7 主の怒りはイスラエル人に向かって燃え上がり、彼らをペリシテ人の手とアモン人の手に売り渡された。

10:8 それで彼らはその年、イスラエル人を打ち砕き、苦しめた。彼らはヨルダン川の向こう側のギルアデにあるエモリ人の地にいたイスラエル人をみな、十八年の間、苦しめた。

10:9 アモン人がヨルダン川を渡って、ユダ、ベニヤミン、およびエフライムの家と戦ったとき、イスラエルは非常な苦境に立った。

シャミルもヤイルも「小士師」と呼ばれ、聖書では有名な方ではありません。しかし合わせて55年もの間、イスラエルに平和をもたらしたので、その働きはすばらしいものでした。「有名が無名か」「評価されているかいないか」は人間の基準で

あって、神様ご自身の目にはまた別の話です。人からほめられるよりも神様の役に立つことを考えましょう。

イスラエルはまた神の恵と守りを忘れて、「神なしでも大丈夫」「神に従わなくても何とかなる…」と、「主を捨てて」しまいました。神を忘れるだけでなく、過去の失敗をも忘れてしまったのです。または自分たちの失敗を次世代に教えなかったということも、その要因でしょう。

神の民の歴史は、常に神様の栄光が語られるべきであり、人を美化したり不都合を隠したりすべきではないのです。私たちも過去を分かち合うときには気をつけなくてはなりません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10:10 そのとき、イスラエル人は主に叫んで言った。「私たちは、あなたに罪を犯しました。私たちの神を捨ててバアルに仕えたのです。」

10:11 すると、主はイスラエル人に仰せられた。「わたしは、かつてエジプト人、エモリ人、アモン人、ペリシテ人から、あなたがたを救ったではないか。

10:12 シドン人、アマレク人、マオン人が、あなたがたをしいたげたが、あなたがたがわたしに叫んだとき、わたしはあなたがたを彼らの手から救った。

10:13 しかし、あなたがたはわたしを捨てて、ほかの神々に仕えた。だから、わたしはこれ以上あなたがたを救わない。

10:14 行け。そして、あなたがたが選んだ神々に叫べ。あなたがたの苦難の時には、彼らを救うがよい。」

10:15 すると、イスラエル人は主に言った。「私たちは罪を犯しました。あなたがよいと思われることを何でも私たちにしてください。ただ、どうか、きょう、私たちを救い出してください。」

10:16 彼らが自分たちのうちから外国の神々を取り去って、主に仕えたので、主は、イスラエルの苦しみを見るに忍びなくなった。

10:17 このころ、アモン人が呼び集められ、ギルアデに陣を敷いた。一方、イスラエル人も集まって、ミツパに陣を敷いた。

10:18 ギルアデの民や、その首長たちは互いに言った。「アモン人と戦いを始めるものはだれか。その者がギルアデのすべての住民のかしらとなるのだ。」

苦境にあえいだイスラエルは、自分たちが神を忘れてほかのものを頼りとして仕えていたこと、それが問題であったことに気づき、神様に助けを求めました。しかし神様は彼らの悔い改めが本物であるかどうかを試すように、偶像に助けを求めようと突き放されます。そこで初めてイスラエルは偶像を処分したのです。

神様に助けを求めると、正しい道に方向転換する悔い改めとは違います。主は本当の悔い改めを求められるのです。

そこで主はイスラエルを助けることにされました。このように、悔い改めに遅いということはありません。しかも主は「見るに忍びなくなった」とあるように、その愛と憐れみの心を持って真心から助けてくださるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11:1 さて、ギルアデ人エフタは勇士であったが、彼は遊女の子であった。エフタの父親はギルアデであった。

11:2 ギルアデの妻も、男の子たちを産んだ。この妻の子たちが成長したとき、彼らはエフタを追い出して、彼に言った。「あなたはほかの女の子だから、私たちの父の家を受け継いではいけない。」

11:3 そこで、エフタは兄弟たちのところから逃げて行き、トブの地に住んだ。すると、エフタのところに、ごろつきが集まって来て、彼といっしょに出歩いた。

11:4 それからしばらくたって、アモン人がイスラエルに戦争をしかけてきた。

11:5 アモン人がイスラエルに戦争をしかけてきたとき、ギルアデの長老たちはトブの地からエフタを連れて来ようと出かけて行き、

11:6 エフタに言った。「来て、私たちの首領になってください。そしてアモン人と戦いましょう。」

11:7 エフタはギルアデの長老たちに言った。「あなたがたは、私を憎んで、私の父の家から追い出したではありませんか。あなたがたが苦しみに会ったからといって、今なぜ私のところにやって来るのですか。」

11:8 すると、ギルアデの長老たちはエフタに言った。「だからこそ、私たちは、今、あなたのところに戻って来たのです。あなたが私たちといっしょに行き、アモン人と戦ってくださるなら、あなたは、私たちギルアデの住民全体のかしらになるのです。」

11:9 エフタはギルアデの長老たちに言った。「もしあなたがたが、私を連れ戻して、アモ

ン人と戦わせ、主が彼らを私に渡してくださったら、私はあなたがたのかしらになりましょう。」

11:10 ギルアデの長老たちはエフタに言った。「主が私たちの間の証人となられます。私たちは必ずあなたの言われるとおりにします。」

11:11 エフタがギルアデの長老たちといっしょに行き、民が彼を自分たちのかしらとし、首領としたとき、エフタは自分が言ったことをみな、ミツパで主の前に告げた。

エフタは遊女の子であって、母親の違う兄弟たちから憎まれて育ち、結果的には家を追い出されるという逆境の中で育ちました。神様はそのような人をも尊い働きのために召して、勝利者として用いられるのです。

私たちの場合も、自分が思うような生き方ができないときに、それを生い立ちのせいにするのは解決になりません。主の召しに従って決断するかどうかにかかっているのです。また人を見るとときも、その過去をや周辺を見て決め付けてはなりません。

エフタは「主の前に告げた」とあるように、主を中心に生きた人のようです。だからこそ、彼は自分への仕打ちを恨みとして残さないで、主の召しに従い、周囲を助ける思いになったのでしょう。主への信仰が人の人生をすばらしいものに変え、周囲との和解も導き、さらには幸いな勝利へを導くのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

